

OMU

大阪公立大学人権問題研究センター

RCHR

第172回サロンde人権

戦時期における優生学の 混血言説と人種主義

話題提供：徐東周 氏

(ソウル大学日本研究所 助教授)

4月19日(水)

午後3時～5時

大阪公立大学 高原記念館 2階 特別会議室

定員 対面 20名 ZOOM 100名

事前申込・先着順

無料

参加希望者は otazune@rchr.osaka-cu.ac.jp に前日正午までにご連絡ください。

定員に達し次第締め切りとさせていただきます。お問い合わせはセンターまで

近代日本の優生学が目指したのは、西洋人との「人種競争」で勝利することであり、混血はその手段の一つとして見なされた。しかし、多くの優生論者は混血に否定的であった。彼らは「遺伝的に劣った人」との混血が社会の崩壊を引き起こす可能性があるかと懸念した。「遺伝的な劣等者」には、精神病患者、アルコール中毒者、性病患者以外にも、下層民や植民地出身者も含まれた。その意味で、民族間の接触が増え続けられる帝国日本の現実には彼らにとって一種のアポリアであった。それでは、優生論者たちはこの問題にどのように対処したのだろうか？

【新型コロナウイルス感染予防対策のため、ご協力をお願いいたします。】

※発熱や風邪のような症状のある方につきましては、参加をお控えください。※かならずマスクの着用をお願いいたします。

※会場入口に消毒薬をご用意しておりますので、ご利用をお願いいたします。